

1 学校課題

平成28年度に牧丘・三富の4つの小学校が統合して1年経過し、3年目を迎えた。統合前の平成27年度の1年間に児童会活動や学年ごとに合同の学習活動などで交流の機会をもったことや、学校外の習い事やスポーツなどで顔見知りの児童もいたことで、人間関係の構築をスムーズに行えた児童が多かった。しかし、学年の人数が多くなったことで戸惑いや集団に馴染めない児童もいた。3年目を迎えた現在、人間関係の構築に関する問題は少なくなってきたものの、児童が互いに慣れてきたことが原因で、他の人間関係などの問題や児童個人の問題が生じてきている。また、地元の中学校へ進学してもクラス替えがないことから人間関係が固定してしまうのではないかと心配している保護者もあり、その解消に向けた取り組みが求められている。さらには、変わらない人間関係による社会性の未発達等も懸念されるため、それへの対策も求められている。それらの解決のために、昨年度、コミュニティ・スクールや小中連携としての取り組みにより、地域とつながった教育活動がいくつか芽吹きつつある。それらの活動を本校の実践例として育て形作り、地域へのアプローチの仕方や組織作りなどノウハウを蓄積し、地域とのつながりのある魅力ある学校づくりをめざしていく必要がある。

2 研究主題

「学びの深まりを目指した授業づくり」
～ICT 機器などを活用した思考の可視化に焦点を当てて～

3 主題設定の理由

本年度の研究は、統合によるICT 機器や環境の充実や市教委のICT 教育研究指定によるICT環境の充実により、ICT 機器を活用しようとする教員の意欲が高まったことなどから、ICT 機器の活用を取り入れた教科や場面が増えていることを鑑み、ICT 機器などを媒介とした、思考の可視化による学びの深まりを実現していきたい。

思考の可視化による学びの深まりを支える一つに、自他を認め合う学級づくりも重要になる。思考の可視化には自身の考え等をまずはもつこと、次に表現することが必要となる。これまでの研究成果として、ICT 機器を学習の道具の一つとして活用したことで学習への意欲が高められたこと、多様な考え方に触れたことなどの成果があったことは明らかである。しかし、その成果が学びの深まりにつながったかという所の結論は明白ではない。その理由としては、学びの深まりまでを視野に入れての研究を行っていなかったことや、表現したことを互いに受容し合う学級経営的視点、並びに多様な思考に触れたその先までを追った研究を行っていないからである。去年までの素地の上に、本年はそこに迫ることを目指す。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

ア ICT 機器を活用した学び合いや考えを高め合う授業づくり

- ・各教科において、ICT 機器の効果的な活用を工夫する。
- ・実践を公開し合い、授業力を高める。

イ 学習環境づくり

- ・学習集団づくり…学級力向上プロジェクトの活用、Q-Uの活用
- ・学習習慣の確立…授業規律の徹底
- ・さわやかタイムの有効活用、家庭学習の充実

(2) 研究の方法

- ア 基本的には全体会での研究を行うが、内容によってはブロック(低学年、高学年)に分かれて研究を深める。
- イ 研究授業をブロックごと1本行う。(指導主事招聘)
- ウ 一人一実践の授業公開を行う。(ブロック内で参観し合う。)
- エ ICT 機器の活用に関わり、学習会を設けたり、日常的に学び合ったりする。

校内研修年間計画

研究主任 古屋 達朗

	月	日	内容	備考
①	4	11	研究の方向性	全体会
②	4	18	研究主題, 研究内容, 研究計画等の決定	全体会
③	5	2	ICT 機器の学習会, 理論研究	全体会 教育センター (岩沢TC)
④	5	30	ICT 機器の学習会, 理論研究	全体会 山梨県立大学 八代一浩教授
⑤	6	20	一校一実践などについて, 授業者決定	全体会
⑥	8	17	教育課程研究協議会の還流報告, 授業者決定	全体会
⑦	9	5	授業案づくり	ブロック
⑧	10	10	授業案づくり	ブロック
⑨	10	17	授業案検討	全体会
⑩	10	24	授業研究①	全体会 TC要請予定
⑪	11	7	授業案検討	全体会
⑫	11	14	授業研究②	全体会 TC要請予定
⑬	1	30	一校一実践のまとめ, 研究のまとめについて	全体会
⑭	2	20	研究のまとめ	全体会
⑮	3	6	研究紀要作成	全体会